

平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 15 日

施策No.	8	施策名	自然災害に強いまちの形成
主管課名	建設課	主管課長名	宮崎 信一
関係課名	農林水産課、都市計画課、水道課、下水道課		

施策の目的 【対象】	①市民	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
		①市の人口	人	46,459	46,036	45,562	45,562	45,562	

施策の目的 【意図】	自然災害から生命や財産を守られる。	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
		①雨水幹線整備率	%	62.7	63.2	63.7	66.0		
②排水路整備延長(累計)	m	3,044	3,219	3,495					
③河川改修済延長	km	41.5	41.5	41.5	41.9				
④土砂災害危険箇所整備率	%	28.8	28.8	28.8					
⑤管路の耐震化率	%	5.7	7.0	調査中	5.0				

成果指標設定の考え方	<p>①②市内の排水路(雨水幹線、排水路)の整備が進むと浸水被害が減少することにつながるため、雨水幹線整備率及び排水路整備延長を成果指標とした。</p> <p>③河川の改修が進むことにより、河川の氾濫による被害を防ぐことができるため、これを成果指標とした。</p> <p>④土砂災害の危険箇所を整備することにより、土砂災害が減少し、生命、財産を守ることができるため、これを成果指標とした。</p> <p>⑤重要なライフラインである上水道施設を地震に強いものにするため、生命を守ることににつながるため、これを成果指標とした。</p>
------------	---

成果指標の把握方法(算定式等)	<p>①下水道課の資料により把握。(雨水幹線整備事業実績により把握。) 雨水幹線整備率 = 雨水幹線整備面積 ÷ 雨水幹線整備計画面積 × 100</p> <p>②建設課の資料(工事台帳)により把握。 * 平成13年度からの整備累計延長</p> <p>③建設課の資料(河川改修事業実績)により把握。</p> <p>④建設課の資料(富山県土砂災害整備中期計画と事業実績)により把握。 土砂災害危険箇所整備率 = 土砂災害危険箇所整備済箇所数 ÷ 土砂災害危険箇所中期計画箇所数 × 100 による。</p> <p>⑤水道課の資料(水道事業年報)により把握。 管路耐震化率 = 耐震化済延長 ÷ 耐震化計画延長 × 100</p>
-----------------	---

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害防止対策の目的、必要性を理解いただき、事業実施に協力していただく。 日頃から危険箇所等の変化を発見したら出来るだけ早く連絡していただく。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害に備えて、計画的に施設整備、維持管理を行う。 事業実施に際しては、説明会など住民への理解促進を図る。
	その他	

